

ワークス・ジョブカレ通信

～ココロつなぐかけ橋～ 1月号

平成30年1月4日発行
社会福祉法人 グロー
～生きることが光になる～
びわ湖ワークス・ジョブカレ
東近江市躰光寺町250番地
TEL0748-42-3715

利用者と職員

2018年みんなの抱負を聞いてみました。

毎日来る時間を
のばす。
しごとを
がんばりたいです。
段取り八分！
会社仕事人
一所懸命
自分の時間も
大切にしたい！

ジェランの会社に行っても
休まず仕事を頑張りたい
1年間健康で
仕事していきたいです。
健康第一
自分に負けない事
誠心誠意で
仕事に取り組もう
自分のペースでゆっくりと
焦らず生活を送り、
何が出来るかをしっかりと
見極めていく。
やさしさを強さに変え、
働きたい！
やさしさこそ真の強さ。

あまりありません
自分の思い(考え)を
支援に繋がるようにしていく。
新しい仕事を
頑張りたい
新しいケイタイと
痩せてた頃の私よ
ワンモア～
今年こそダイエット！
週5日出勤できるように
毎日通所する。
現在の使い続けている財布に
半分は入れておきたいです。
NON STOPでやりつづけることが
できるのだろうか？
チューブ通して
体力をつける
できることを増やして
移行に移る！
返事とあいさつは
しんきしゅをチューブの中で
つまらないようにしたいです。
体を動かす。
プールに行く！！

大きい声が出せるようにがんばる。
どの仕事を頼まれても
手話をパーフェクトにする。
効率的にこなせるようにすると共に、
ワンステップ at a time 一歩前進
リーダーシップを目指しながら、
着られなくなった服の断捨離。
一人暮らしをマスターする。
ケン康にも気をつけます。
(もう二度と昔の体型には戻れないと
ようやくわかったので)
どんなしごと
ケン康にも気をつけます。
毎日(できるだけでも)
来れるようにする。
さいごまでやりとげる
仕事を楽しんで
がんばる！
休むときは
連らくをする。

しゅうしょくが
できるように
宮川産業のシールはりをがんばる。
自分の事やいけんを
人にたえられるようになる。
二度とけがが
おこらないようにする
じっしゅうにいきたいです。
カゼをひかない
人の話を聞けるように
しましゅう。

みなさんにとって
ワンダフルな一年になりますように！

びわ湖ワークス・ジョブカレ同

新年のご挨拶



あけましておめでとうございます。本年もよろしくお祈りします。

みなさんは、お正月にどんなことを考えましたか？私はなぜか、干支の意味を知りたいと思ったのです。そして、広辞苑という辞書を引くと難しいことがたくさん書いてありましたが、昔の人は干支を使って年や月、時間、方角を表すなど、時間を表す概念として生活に欠かせないものだったようです。

早いもので、びわ湖ワークス・ジョブカレは今年10年の節目を迎えます。干支の意味を考えながら、この施設での支援がみなさんにとって、ちゃんと届いていたのだろうか、と振り返る機会になりました。

みなさんにとって、びわ湖ワークス・ジョブカレで活動や、生活が、自分の目標や進みたい道を選択でき、決められる機会をえる場所になったらいいなと思いますし、そうしていきたいと考えています。みなさんそれぞれの目標や進みたい道は違うでしょうが、それぞれの目標を実現できるよう、職員一同全力で支援していきたいと思ひます。

今年一年がみなさんにとって、いい一年になるように。



びわ湖ワークス・ジョブカレ所長 松田裕次郎

ワークス・ジョブカレ 忘年会&お祝い会

年末の大掃除をした後は、毎年恒例の忘年会が開催されました。今年はみんなで温かい鍋を囲み、クイズ、ビンゴ大会、パフェ作りと盛りだくさんの内容でした。中でも利用者さん出題のクイズは、個性光るものがたくさんあり、また、Tさんは自慢の歌声を披露されました。あわせて、今月就職されるMさんと、成人式を迎えられるNさんのお祝いの会も行われました。最後は、びどうの木松島様が素敵なよし笛を聴かせて下さいました。会の開始時間が遅れるなど、ご迷惑をおかけいたしましたが、みなさまのおかげでみんなが笑顔で一年をしめくくる事が出来ました。お忙しい中、ご参加いただきましたボランティアの方、ご家族のみなさまありがとうございました。



1月の予定

- よっか 4日 初詣
- 18日 企業見学(立川布帛)



日々是好日~このごろ思うこと~

冬の竜飛岬の夕景を撮影しようと冬季閉鎖された雪道を歩いていて、聞こえるのは、海鳴りと雪を踏む自分の足音だけ。カメラ機材は重く、体は汗ばんでいたが、2月の外気はどんどん冷え込んでいく。ふと、振り返ると、10メートルほど離れた斜面に、獣の影が見えた。目を凝らすと10頭以上はいる犬の群れだ。平行する私の歩く速度と同じようについて来る。昭和36年開始された青函トンネル工事は27年に渡って行われていた。そのころ竜飛には、1つの集落が出来ていた。トンネル工事に携わった人たちの家々や学校、病院もあった。青函トンネルの完成に伴って、その小さな村は消え、今は跡形もない。そこで飼われていた犬たちの多くは、取り残され野生化したという話を聞いていたが、目の当たりにしたのは初めての事だった。今から25年も前の、物好きなカメラマンの体験談である。今年は戌年。犬について思う時、この体験がいつも蘇る。

